

公益財団法人宮崎文化振興協会

令和4年度 定時評議員会議事録

1. 日 時 令和4年6月24日(金) 午前9時55分～午前11時45分

2. 場 所 宮崎市宮崎駅東1丁目2-7 宮崎市中央公民館 中研修室

3. 出席者 評議員現在数 5名 定足数 3名

評議員出席 石川千佳子 河野太郎 辻利則
外山與子 西田幸一郎

以上5名

(定款第17条第2項の規定による定足数を充足)

理事出席 高島弘行 横山伸子 以上2名

監事出席 酒匂俊宏 横山香代 以上2名

同席者

(公財)宮崎文化振興協会事務局 次長兼経営戦略課長 安藤邦恵他8名
計 18名

4. 議案 第1号議案 令和3年度事業報告について
第2号議案 令和3年度決算の承認について
第3号議案 理事の選任について
第4号議案 監事の選任について

5. 議長選任の経過

司会が開会を宣言した。次に、定款17条第2項により会が有効に成立していることと、定款第20条第2項に基づき、出席した評議員と理事全員が議事録署名人になることを告げた。

続いて、議長については、定款第19条第4項により評議員で互選し、河野評議員が議長を務めることとなり、議長の進行により議案の審議に入った。

6. 議事の経過要領及びその結果

議長は、次の4議案について審議した。

(議案)

第1号議案 令和3年度事業報告について

第2号議案 令和3年度決算の承認について

議長の求めに応じて、第1号議案と第2号議案の説明が続けて行われた。

令和3年度事業報告及び決算の承認について事務局から説明があり、続いて酒匂監事より、会計処理が適正であり、財務諸表等が協会の財産及び損益の状況について、適正に示していると認める旨の監査報告、及び酒匂監事と横山監事から総評があった。その後、本議案に関連して次の意見、質疑応答があった。

(石川評議員) ずっと懸案だった処遇改善がなされ、学芸員の方等も無期雇用になり、今までと比べかなり処遇が改善されてきたことが伺われた。本協会の学芸員の方たちも非常に優秀で、今日、宮崎市歴史資料館の紀要も付けていただいたが、掲載されている論文も本格的なものであり、こうした調査研究が基本になってこそ、いいイベントもできると思う。

また協会では、必ず研究事業の発表会を実施していて、毎年参加させていただいているが、例えば、大淀川学習館の水槽が非常に綺麗になったのには驚いたが、研究と連動して施設の改善がなされている。そうした成果をふまえて、処遇の改善というものをこれに終わらず、今後も不断に見直していただきたい。

また、この厳しい時期にも関わらず、かえって入館者数等を伸ばした館もある。例えば大淀川学習館での ICT 技術を積極的に活用した情報発信も入館者数を増やす一因となったと思うので、他の館もすでにやっているのかもしれないが、こうした取組は進めてほしい。

(高島理事長) このまま引き続き、今年度以降もしっかり事業を行っていききたい。

(石川評議員) 処遇改善についてもよろしくお願いします。

(辻評議員) 多くの事業をされ、工夫もいろいろされているが、組織的にどう事業を修正したり、新規事業を生み出したりしているのか、どのような仕組みでされているのか。

また事業説明の中で、この事業は人気があるという説明があったが、今回の事業報告では人数だけだった。人気があるという言葉だけではなく、例えばアンケートとか、その根拠が示されるといいと思った。

先ほどとは逆だが、新規事業をどんどん増やしていくと、オーバーワークになると思う。事業を増やすけれども、一方でデータから事業を削減するというのも同時にやらないと大変なことになってしまう。

新規事業を生み出す方法と、人数だけではなく事業の評価はどうされているのか、事業を削減していくことも考えているのかということ伺いたい。

(高島理事長) 先ず私の方から全体的なことをお答えしますが、事業についてはスクラップアンドビルドというかたちで、優先的な事業として残すものは残し、変えていくもの、今年も2つの事業を1つに組み合わせることを大淀川学習館で行っている。

また多くの事業の中で、法人全体として、モニターを1市2町の住民の方々に担っていただき、ハード面、ソフト面、様々なご意見をいただいている。年2回意見交換を行い、そのご意見をすぐ事業に活かせるようにしている。

(重山副館長) 4年前に着任した際に、数人の来館者から「科学技術館は新しい展示物は何か入りましたか」と聞かれ、「残念ながら新しい展示物はありません」とお答えしたところ、「では帰ります」と言われた経験がある。

科学技術館は、先端科学技術を紹介するという役目もあり、確かに展示物については職員も過去からずっと頑張ってきたとは思いますが、新しい展示物を入れることができなかった。なんとかしないといけないということで、4DVRを導入したが、これは提案いただいたのが地元の企業で、職員で実際に体験にも行き、大人も喜ぶものなら子どもも絶対喜ぶだろうということで、5年リースで導入した。一旦入れて10年、20年経ってしまうとまた古くなってしまふ。5年リースであれば、今は最先端でも、5年経過して古くなっていけば、また新しいものを入れることができるということ

で、5年リースで導入した。

この4DVRが人気のある根拠については、館内でアンケートを取っており、そのなかに「4DVRは楽しかった」という声がたくさんあることと、土日祝日は多いので整理券を配布していて、午後4時30分まで乗れるが、状況によっては午前中で整理券を全て配り終えてしまう。そういったことから非常に人気が高いということと、直接お客様と触れ合う中でも、大人の方から喜ぶ意見をいただき、高校生、大学生が来館するようにもなった。次に、お手元にもチラシをお配りしているが、3Dホログラムのディスプレイを夏休みに導入する。この導入の経緯については昨年度、いくつかの企業に企画提案をお願いし、それを館長含め館内の職員で検討し、最終的には理事長の決定で導入した。これも5年リースで導入しており、おそらく体験できるのは九州でも他にないと思う。正に映像技術の最先端を提示できる。このようにアンテナを高く張りながら、館内の職員で検討しながら、最先端の科学技術を導入するという努力をしている。

(二宮館長) 大淀川学習館ですが、事業の中で「カブトムシ・クワガタムシ展」は人気があるということで説明したが、根拠としては来館者のアンケートや展示会場での来館者の声、また企画展についての問い合わせの数の状況等から、手応えを肌で感じている。

企画展に合わせて、「カブトムシ・クワガタムシ展」であれば、木登り大会や相撲大会などの関連イベントを行っている。そこでの申し込みはすぐに定員に達する勢いで申し込みがあるし、またこの中でもアンケートをとるが、前向きな意見がかなり多いということで、人気があるという表現で説明した。

イベントの企画の数については、先ほど研究事業の話もあったが、年度当初に職員と面談を行い、どういう事業、研究を行い、日常の業務へどう結び付けていくのかという話をしている。その中で、担当する企画展やイベントを含めて、今年度はどのような事業ができるのか、新たな事業ができるのか、またはどう変えていくのか、といった協議をしながら年間の事業を組み立てている。それを踏まえて、来年度以降のことについても話を組み立てている。

新規が増える場合は、それと合わせてスクラップもしている。

(辻評議員) 科学技術館など、いろいろと組織で新しい取組をされており、参考になりました。

(外山評議員) 私は小中学校で講話をすることが多いが、最近はメディア依存になっている子どもたちの問題が、本当に学校現場では大変な状況である。

最初の高島理事長のお話や、皆さんからの事業報告を聞いていて、本当に科学というのは夢とロマンがあって、文化は心を豊かにするもので、それが全ての事業に含まれているのに、子どもたちは科学の先端によって、心も身体も蝕まれている状態になっているという矛盾に、心が痛い。

しかし、皆さんのお話を聞いていて、まだまだ大丈夫だという気持ちになり、それをぜひとも子どもたちに伝えていけたら、皆さんの考えを広げていけたらと思った。

事業報告について質問だが、プログラミング体験事業をされたとのことだが、これは申込なしでされていて、参加者数も多かったが、このプログラミングは簡単にできるものなのか。プログラミングは高校で必修化され、中学でもどんどん体験しないといけなくなってくるが、こういうものは取り入れていく必要があると思う。

また、資料の中に、教員のための科学実験講座というものがあり、新規事業として夏休みに開催されているようだが、参加者が6名であり、先生たちにも勉強したり、意見交換したりする場があつてしかるべきと思う。子どもたちには授業を補佐するイベントがあるが、先生に対してのサポートがもっとあつてもいいのではないかと感じた。

(重山副館長) 最初のお話は、よく言われる光と影の、影のお話をされたと思うが、科学技術館の職員も、その部分は十分配慮しながらイベント等はやっていきたいと思っている。

プログラミングについては、令和2年度に小学校の学習指導要領に記載され、学校現場ではもちろんプログラミングの必修化が行われているが、学校だけではなく、近隣の教育施設でもプログラミング教育について別の視点でやってほしいとの声があつたため、科学技術館としても実施したという経緯がある。プログラミングを専門でやっているところに委託で来てもらい、イベントとしては小中学生対象だが、大人も一緒に楽しんでいただく。教室は申込制であり、今年もドローンを使ったプログラミング体験学習を行うが、1時間10分で、3日連続の講座60人が満杯となった。そのくらい人気がある。

次に教員のための科学実験講座については、中学校は理科専門が授業をするが、小学校の場合、理科専科が少なくなっている状況がある。それを補うために、県の教員研修センターや市の教育情報研修センターで理科教員を対象とした講座を持っているが、科学技術館としても指導主事が派遣されているので、少しでもサポートできればということで講座を開いている。しかし、この時期はちょうど新型コロナの感染が多い時期で、受けないという先生はたくさんいたが、遠慮されて結果的に6人となった。新型コロナの影響がなければ、おそらく定員満杯になる事業だと考えている。

(高島理事長) プログラミングとか、配布が進んでいるタブレット等、こういうことについては、本日は西田教育長も評議員としてお見えだが、教育委員会と連携をとりながら取り組んでいる。また、教員の指導に関しても配慮いただき、派遣されている指導主事についても、教育委員会の一員としていろいろな研修にも参加させていただいているので、教育長の方から逆に何かお言葉をいただけたらと思う。

(西田評議員) 教育委員会と一緒に、タブレットが子どもたちに配布され、これまでできなかったことも少しずつお互い連携しながらできればと思っている。また指導主事の方も学校の研修等に行きながら取り組んでいるし、だいぶ前のことだが、なかなか先生たちが夏休みも時間がなくて来れないということで、声をかけてくれないかという話があり、教育委員会の方から、貴重な機会なので参加してほしい、と各学校に連絡したこともあった。そういう繋がりを持ちながら、学校では体験できないことが、先生も子どももできるというかたちになればと思う。

昨年の評議員会では、それぞれ頑張っていたものの、利用者数が減って寂しいという話だったが、今回は利用者数も増え、魅力があるから人が来るので、そういうかたちになったんだな、ととても嬉しく聞かせていただいた。

昨年は定例の教育委員会後に科学技術館を視察したが、その時に4DVRを体験して皆さん好評だったし、私たちの後にカップルが利用する姿もあり、いろいろなシチュエーションがあるな、と嬉しく感じた。

それ以外に、教育委員会も一緒になって、科学技術館だけではなく、大淀

川学習館では、普段見ることのできないアカメの捕食を見ることができるVRを作っている。また蓮ヶ池横穴群では見れる横穴と見れない横穴があり、普段見れない横穴をVRで見れるようにしている。

やはり、普段なかなか体験できないことをデジタルによって再現することは今後大きなポイントだと思うので、今後ぜひ活かしていくと更に魅力が高まるのではないかと思う。

あと先ほど、職員の健康管理という部分で、事業として自分で手を挙げるというのはなかなか難しいので、そこをどう工夫するかを考えてほしい。

第1号議案は、報告事項であり審議を終えた。

第2号議案について、審議後、議長が諮ったところ、特段の異議もなく、満場一致で可決した。

第3号議案 理事の選任について

事務局から、理事全員が本定時評議員会の終結と同時に任期満了となるので、次期理事10名の選任について略歴をもとに説明があった。1名ずつ審議のうえ、議長が諮ったところ、特段の異議もなく、それぞれ満場一致で可決した。

(再任) 石本由美子 岩瀬智子 大館真晴 片野坂千鶴子 迫田繁
高島弘行 日高智子 横山伸子 横山秀樹
(新任) 中菌兼次

なお、任期は選任された日から令和6年度定時評議員会の終結の時まで。

第4号議案 監事の選任について

事務局から、監事全員が本定時評議員会の終結と同時に任期満了となるので、次期監事2名の選任について略歴をもとに説明があった。1名ずつ審議のうえ、議長が諮ったところ、特段の異議もなく、満場一致で可決した。

(再任) 酒匂俊宏
(新任) 吉鶴慶久

なお、任期は選任された日から令和6年度定時評議員会の終結の時まで。

以上をもって議案の審議等を終了したので、午前11時45分に司会が閉会を宣し、解散した。

上議決を明確にするため、本議事録を作成する。

なお、以上この議事録が正確であることを証するため、出席した評議員及び出席した理事は次のとおり署名する。

令和4年 6月24日

公益財団法人宮崎文化振興協会 令和4年度 定時評議員会

議長
評議員

河野 太郎

評議員

石川 千佳子

評議員

辻 利則

評議員

外山 興子

評議員

西田 幸一郎

理事

高島 弘行

理事

横山 伸子